

# ホクコー Dr. オリゼフェルテラ粒剤

■種類名：クロラントラニプロール・プロベナゾール粒剤  
 ■有効成分：クロラントラニプロール-----0.75%  
 プロベナゾール-----24.0%

■登録番号：第22561号  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)  
 ■登録初年：2010.01.20  
 ■性状：類白色細粒  
 ■有効年限：5年  
 ■包装：1kg×12袋  
 3kg×8袋(地域限定)  
 10kg×1袋

## 【特長】

- 抵抗性誘導型殺菌剤Dr. オリゼと、新世代の殺虫剤フェルテラの混合剤。
- 育苗箱処理で水稻のいもち病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウなどを同時防除できる。
- 直播栽培でも使用できる。

## 【適用内容】(2022年8月1日現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
湛水 直播水稻	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ	1kg/10a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回	2回以内 (は種時までの処理は1回以内)
稲			移植時		側条施用		2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
稲 (箱育苗)	コブノメイガ	育苗箱 (30x60x3cm、 使用土壌 約5 $\frac{1}{2}$ %) 1箱当り 50g	移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
	もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 イネヒメハモグリバエ		移植3日前 ~移植当日				
	いもち病 ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ イネツトムシ		緑化期 ~移植当日				

## 【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ◆ 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - ◆ 移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - ◆ 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守る。
  - ◆ 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とすのち、十分灌水すること。
  - ◆ 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - ◆ 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - ◆ 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - ◆ 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。

- ◆移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- ◆本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないように注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- ❖ 夏期高温時の使用を避けること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。  
水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。  
使用後は水管理に注意すること。  
器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。